

上映企画「アンソロジー・フィルムアーカイブス——アメリカ実験映画の地平へ」

追加トークイベント開催のご案内

金子由里奈監督の登壇決定！ ジョナス・メカスらの創設したアンソロジー・フィルムアーカイブスとのコラボレーション上映企画いよいよ開幕！

平素よりお世話になっております。このたび、国立映画アーカイブで、2026年1月15日（木）～2月8日（日）に開催するアンソロジー・フィルムアーカイブスとの共催企画「アンソロジー・フィルムアーカイブス——アメリカ実験映画の地平へ」において、追加トークイベントの開催が決定しました。『眠る虫』（2020）、『ぬいぐるみとしゃべる人はやさしい』（2023）など今最も注目をあつめる映画監督のひとりである**金子由里奈氏**と、上映機会の少ない傑作映画を発掘し広めることを目的とした気鋭の上映会「肌蹴る光線」主宰で、ジョナス・メカス監督作の上映会も行なってきた**井戸沼紀美氏**をゲストにお迎えします。

追加イベント詳細

『時を数えて、砂漠に立つ』上映後トーク

日時：1月20日（火）18:30の回

登壇ゲスト：**金子由里奈氏**（映画監督）、**井戸沼紀美氏**（「肌蹴る光線」主宰）



© 1986 Estate of Jonas Mekas, courtesy of The Film-Makers' Cooperative/New American Cinema Group, Inc.

＜作品紹介＞『時を数えて、砂漠に立つ』（1985年）

メカスは初長篇『ウォールデン』（1968）で「日記映画」という独自の手法を確立した。本作はその続篇ともいべき作品で、アンソロジー設立時期の1969年から1984年にニューヨークで交流した友人たちとの124の映像スケッチで紡がれている。

（監）ジョナス・メカス（出）ジョージ・マチューナス、ジョン・レノン、オノ・ヨーコ、アンディ・ウォーホル、ケネス・アンガー、アンリ・ラングロワ、アレン・ギンズバーグほか

※トークイベントのみの参加はできません。

また、俳優ロバート・ダウニー・ジュニアの父であり、ジョナサン・デミやポール・トーマス・アンダーソンといった監督たちに多大な影響を与えたロバート・ダウニー・シニアの監督作品『グリーサーズ・パレス』（1972）のプロデューサーであるサイマールービン氏によるオンラインインタビュー動画も到着！ 本編後に上映予定のほか、国立映画アーカイブHPにて近日紹介予定です。

企画概要

企画名：アンソロジー・フィルムアーカイブス——アメリカ実験映画の地平へ

（英語タイトル：Anthology Film Archives: Surveying American Experimental Cinema）

会期：2026年1月15日（木）～2月8日（日） ※月曜休館

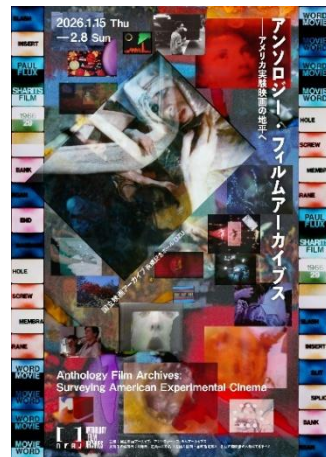
会場：国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU [2階]

HP：<https://www.nfaj.go.jp/film-program/anthology202601/>

主催：国立映画アーカイブ、アンソロジー・フィルムアーカイブス

問合せ：050-5541-8600（ハローダイヤル）

チケット：一般1300円、65歳以上1100円、高校・大学生700円、小・中学生・障害者手帳をお持ちの方（付添者は原則1名まで）・国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズ500円



《本特集に関するお問い合わせ》※一部の作品のステル写真を広報用に貸出します。ご希望の方は下記までお問い合わせください。

国立映画アーカイブ（上映室：金） MAIL: pr@nfaj.go.jp TEL: 03-3561-0823 FAX: 03-3561-0830